

介護事故他

発生日	発生部署	性別	年齢	介護度	事故の区分	不適合の内容	改善計画・対策
H27.4.10	通所介護	-	-	-	車輦事故	配食サービスの業務中、街路樹に車輦を衝突させる自損事故を起こす。	①運転業務を行う職員は自分の体調を過信せず、体調不良時は業務交代等の自己申告を行う様に指導する。 ②部署責任者は全職員の体調把握を行う。必要時は看護職員に体調チェックを依頼し、業務交代が必要であると判断した場合は業務交代の指示を行う。 ③部署責任者は本件発生内容と原因及び再発防止対策の職員周知を行い、部署会議でも再度職員指導を行い、上記再発防止対策の指導を行う。 ④部署責任者は衝突した街路樹を所有する大分市と事故後の処理を遂行する。
H27.4.22	グループホーム	男	97	2	骨折事故	自分でトイレに行く際、靴を履かずに歩行し左足第1指骨折する。	①今後の状態に応じてケア記録、モニタリング、アセスメント等に変更があれば入力を行い、サービス計画へ反映させる。 ②部署会議にて改善計画の進捗状況の確認を実施し、確実に実施出来ているかの検証を行う。 ③骨折の為、歩行不可であり車椅子の使用を行う。 ④サービス計画の立て替えを実施し、再発防止に取り組む。 ⑤同様の危険性がある顧客がいないかを職員間で検討を行い、再発防止に取り組む。
H27.5.19	看護	-	-	-	投薬事故	退院時処方の水薬援助の際、1日分の量を1回分として服薬援助した。	①退院時の処方については入院先の病院に電話連絡をして、処方内容を確認する。 ②病院に問い合わせた処方内容の確認を出勤職員間で行った上で支援記録に入力する。 ③毎月の部署会議にて改善計画の実施が適切に行われているかの検証を行う。
H27.5.20	2丁目1番館	女	93	3	転倒事故	自分でトイレに行こうとして居室内で転倒し、右大腿部転子部骨折する。	①退院後、本人の状態に応じたベッド柵の検討。本人の生活パターンの分析・検証を実施し、24時間シートに反映する。特別なケアを必要とする項目については、状態に応じたサービス計画を策定する。 ②部署会議にて改善計画の進捗状況を確認し、確実に実施出来ているかの検証を行う。
H27.6.24	グループホーム	女	79	4	転倒事故	居室からトイレに行こうとして立ち上がり転倒。右足大腿骨骨折する。	①退院後、本人の状態に応じたセンサーの秒数の設定を行う。 ②退院後、本人の生活パターンの分析・検証を実施して24時間シートに反映し、状態に応じたサービス計画を策定する。 ③部署会議にて改善計画の進捗状況を確認し、確実に実施出来ているかの検証を行う。 ④リーダー会議にて水平展開を実施する。
H27.7.10	豊後3階	女	81	5	骨折事故	リクライニング車椅子上で体動により右足脛骨骨折。	①離床時は見守りを強化し、安全に過ごす事が出来る居場所を確保する。 ②今後は短期離床とし、ベッド上で安静に過ごせる様、配慮する。 ③骨折を繰り返している為、全ての介助を慎重に行い、移乗は必ず二人介助で対応する。
H27.8.27	2丁目2番館	女	94	2	骨折事故	自力で車椅子からベッドへ移乗中、ベッドに左足をぶつけ左足踵を骨折する。	①現在、左足の安静指示が出ている為、移乗等が必要な際は職員が介助を行う。 ②共用トイレを使用していたが、安静指示の間は常時オムツを装着し、必要に応じてポータブルトイレを居室に設置し対応する。 ③完治後については状態に応じたベッド柵の検討を行い、移乗の際は職員を呼ぶようお願いし、職員見守りのもと移乗介助を行う。

介護事故他

発生日	発生部署	性別	年齢	介護度	事故の区分	不適合の内容	改善計画・対策
H27.10.29	3丁目5番館	女	88	4	骨折事故	ベッドより立ち上がり転倒しそうになり、右足に負荷がかかり骨折。	①退院後、本人の生活パターンの分析と検証を行い、24時間シートに反映し、状態に応じたサービス計画の策定を行う。 ②部署会議にて改善計画の進捗状況を確認し、確実な実施が出来ているか検証を行う。
H27.12.14	通所介護	女	86	1	投薬事故	服薬管理している顧客の薬を他顧客に服薬援助した。	①管理する服薬に名前がない場合、名前を記載して服薬管理表に預かりの記載を行う。 ②服薬管理表で預かりや援助済みであることの記載だけでなく、特記事項として管理変更内容を口頭報告及び特記記載ができる管理表に変更する。また、援助する職員は管理表に基づき援助する。 ③服薬援助の際、預かった職員と別の職員が管理表の最終確認を行う。また、月締めとして月末服薬に変更がないかの確認も行う。
H27.12.28	豊後3階	男	66	3	切傷・擦過傷事故	昼食時に椅子から転落し、右前額部を強打。右前額部3針縫合。	①転倒の危険性が非常に高い事を認識し、離床時は必ずチェアセンサーを使用し、本人の状態を確認して見守り・介助を行う。 ②同様の危険性がある顧客についても職員間で検討を行い、個別ケア記録を残す事でモニタリングサービス計画に反映させる。 ③部署会議にて改善計画の進捗状況を確認し、確実に実施出来ているかの検証を行う。
H28.1.25	豊後3階	女	92	3	骨折事故	日常生活動作が負担となり骨折。	①本人の状態に応じたサービス計画を策定する。 ②今後の対応方法や介助方法の検討を部署内で行う。 ③骨折の危険性がある顧客について検討し、個別ケアの危険性に記録する。